

環境技術の新展開



京都大学大学院工学研究科
都市環境工学専攻 教授

工学博士 **津野 洋**
Hiroshi Tsuno

今、我が国の環境技術は、水処理、汚泥処理およびごみ処理の分野では世界のトップを行っていると認識している。このすばらしい技術を継承しさらに発展させていくことが健康で文化的で福祉に富んだ社会の構築・維持には不可欠である。環境技術は、その技術がすばらしいものであるとともに、使用され上記のことに寄与してはじめて評価されることも特色である。これは社会的価値判断にも大きく影響される。

いままでの環境技術は、社会的問題や課題が生じた時にその解決の技術に重みが置かれ、経済的価値判断のもとで評価がなされてきた。現在では、より厳しいレベルまでの汚濁物や厄介物の処理は当然として、さらに省エネルギー（二酸化炭素発生量抑制）型や資源・エネルギー回収型であるとの価値判断基準が求められている。しかしながら、高度の処理をすればより多くのエネルギーが必要となる。この問題を解決するには、勿論個々の技術での省エネルギー化を図ることは当然であるが、対象とする技術・システムの境界を広げて考えることと、無効に廃棄されているあるいは未利用の資源・エネルギーを回収することが必要である。この枠組みを考えそれに必要な技術開発の視点を持つことが重要である。

しかしながら、これら技術の使用は直ぐにはなされない。特に我が国では、社会基盤の整備がおよそなされ、すぐに新しい価値判断に基づく新しい技術が採用されにくい状況にある。循環利用可能として回収した資源も、古い経済観念や流通システムからすると役に立たない（利用価値がない）から捨てていたものであるため、循環利用のルートには乗らない。

ここで意気消沈すれば、もっと厳しい時代に着実に熱意を持って技術開発をして現在を築いた先輩技術者に申し訳ない。発想の境界も広げ知恵を出し努力をすべき時代である。技術開発やシステム開発に、福祉の増進などの市民が付加費用を支払っても良いと考える価値を付与しては如何であろうか。この技術・システム開発がなされればきっと使ってもらえるはずである。いや使う事業が今の社会システムに変わってできるはずである。もう一つの突破口は、市民の環境技術・システムへの応援団を作ることである。きっと、古い経済観念のルートとは異なる循環利用のルートができるはずである。こうなると、問題や課題解決のための発想での技術・システム開発から、夢やヴィジョンを掲げてその達成のための技術・システム開発への新たな展開が始まるはずである。また若者の夢や熱意を存続でき、自動車産業におけるように世界をリードする環境技術・システムが続々生まれるはずである。